

大納言大伴 卿の和ふる歌二首

九六七番

大和道の 吉備の児島を 過ぎて行かば 筑紫の
児島 思ほえむかも

九六八番

ますらををと 思へる我や 水茎の 水城の上に
涙拭はむ

三年辛未、大納言大伴 卿、奈良の家に在りて、故郷を思ふ歌二首

九六九番

しましくも 行きて見てしか 神奈備の 淵は浅
せにて 瀬にかなるらむ

九七〇番

指進乃 栗栖の小野の 萩の花 散らむ時にし
行きて手向けむ